



12月16日 税についての作文コンクールで受賞

税についての学びを深めることを目的とする「税についての作文」で、大槌学園9年の照井清姫さんが東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞しました。受賞した照井さんは「こんな大きな賞だとは思っていませんでした。生活している中で思ったことを、正直にそのまま書きました」と受賞の喜びを語りました。

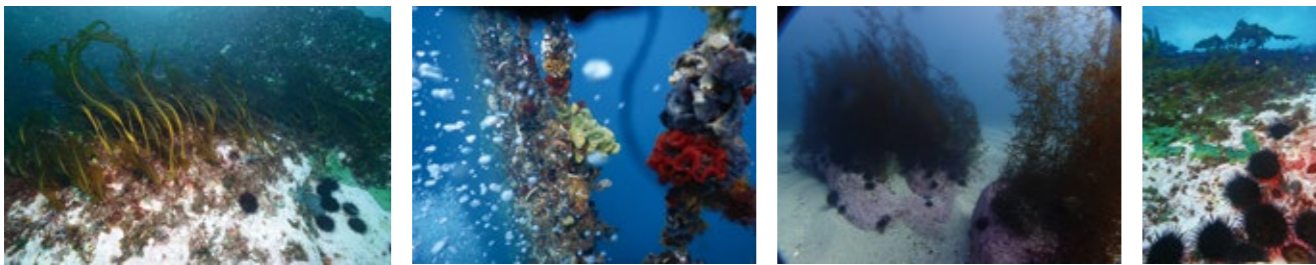


1月23日 大槌の海の神秘 水中フォトコンテストは非日常的空間

1月23日(日)、おしゃっちで三陸水中フォトコンテストが行われました。この写真コンテストは、大船渡市のNPO法人三陸ボランティアダイバーズと、岩手県沿岸広域振興局の共催で開催されました。三陸ボランティアダイバーズは、町の藻場再生事業にも協力しています。

参加者はダイバーで、前日に船越湾へ潜って写真を撮影。この日は写真を自ら紹介し、集まった観客へ披露しました。

最優秀賞に選ばれたのは、宮古市の沢口泰治さん。イトマキヒトデを大きくとらえた作品が見事選ばれました。「毎週潜っていますが、あまり注目しないヒトデを撮ってみようと思影しました。うれしいです。藻場再生も一緒に取り組んでいますが、やり続ければ成果が出るので、これからも続けていきたいです」と話していました。



1月26日 「祖父の手」 令和4年度全国防火防災作文コンクール最優秀賞受賞

生活協同組合全日本消防人共済会主催の標記作文コンクールで、吉里吉里学園9学年の東谷柚月さんの作文が、各都道府県支部から選抜された46作品の中から最優秀賞に輝き、1月26日(木)に町長へ受賞を報告しました。

「祖父の手」と題した作文では、「ふるさと科」の防災学習で見た震災時の映像の中で、日頃はワカメの養殖業を営む祖父が必死に避難所を運営し、助け合う人たちの中心にいる姿から、地域を守る防災活動は皆で助け合い、協力し合わなければ成立しないことを学んだと、思いのこもった言葉で伝えました。

東谷さんは「授業で見た映像で、おじいちゃんのいつもと違う表情を見て、防火・防災のテーマにしようと思った。作文を書いて、防災への意識が高まった」とおじいちゃんを見て感じた思いを喜びとともに話していました。



ともに文化を伝える心
情報発信力やデザイン力を

東日本大震災をきっかけに活動をはじめ、日本の伝統手芸「刺し子」を通して、「手仕事のぬくもり」を伝えることを目的に活動する特定非営



地・お・こ
いし・くじゅう

第6回

地おこに求めるもの
渡してあげたいもの

来年度の地域おこし協力隊(地おこ)の新規募集が始まりました。新しく募集することになった受け入れ先に、地おこに期待することや、定住への思いを聞きました。

利活動法人テラ・ルネッサンス。
「ものを大切にする心」から生まれた日本の伝統手芸「刺し子」をともに伝えてくれる人材を求めています。情報発信力や、デザイン、芸術活動の経験、地域の文化保護継承活動の経験などを期待しています。

地元にはない移住者の目線で

大槌復光社協同組合では、サーモンの陸上養殖事業を行って、育成から、PR、ブランディングなどをする人材を募集。町外の人の目線に、商品開発への新たな気づきがあると期待します。現在の地域おこし協力隊員との地域での関わりも深く、移住者のコミュニケーション能力の高さにも注目していて、人のつなが



りを作ってほしいと話します。

この町で働く足がかりに

老人ホームなどを運営する社会福祉法人堤福社では、海外からの技能実習生を受け入れてきた経験から、介護業界への外国人の力と、地域に

おける多文化共生のきっかけとなることを期待。そのためには、ただ手伝ってもらおう意識ではなく、この町に残って働くためのサポートや、地域に溶け込んで文化に触れ、やりたことや楽しみを見つけってもらうことが必要と考えています。
私たちが地おこに期待することはもちろんありますが、私たちの町を好きになってもらい、住み続けたい、働き続けたいと思ってもらうこと、お互いに大切なものを分け合うような関係性が、移住者、定住者が増えることに繋がり、この町が進化するきっかけとなります。

募集情報の詳細は
移住定住 WEB サイト
「ココカラオツチ」

